

口は健康のもと Vol.75

糖尿病でも治療できる

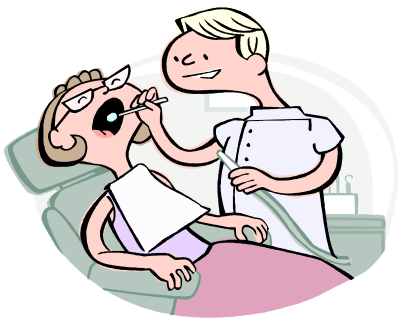
糖尿病と歯科治療は切っても切れない関係にあります。糖尿病になると体の防御機構が低下して感染しやすい状態になり、歯周病やむし歯になりやすく、その進行も早くなるからです。

また抜歯など痛みや出血を伴う処置では、炎症やストレスに対する抵抗力が低下しているために、歯を抜いた後の治療までの期間が長引いたり、膿（うみ）が出やすくなります。

さらに歯科診療中に血糖値が異常に高くなり、意識障害が起きたり、合併症である循環器障害や糖尿病性腎症などの増悪をきたすこともあります。

でも糖尿病の患者さんが抜歯や歯科治療を受けられないわけではありません。治療前に血糖値や合併症の状態を内科主治医と連携して把握し、血糖値や合併症をコントロールしながら歯科治療に臨むからです。

まだ完全には解明されていませんが、歯周病やむし歯を治し、口の健康を増進することによって身体の防御機構が増し、糖尿病の状態が良くなったとおっしゃる方もいるそうです。「糖尿病だから...」と嘆かず、内科とともに歯科の受診をお勧めします。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 杉田 俊博